

B—49 彎曲縫目の破損について

県立藤枝西高 加藤 輝子
都立立川短大 酒井 豊子
○下村 弘子

1. 被服における縫目には、直線縫目ばかりでなく、彎曲した部分も多く用いられ、かつ、彎曲縫目の破損が被服の寿命を左右する場合も少なくないように思われるので、彎曲縫目の破損の状態を調べ、布地のほつれやすさとの関係、破損を防止する縫目の補強（ステッチ）方法などについて検討する。

2. 各種の織物について、 30×30 cmの試片を二枚重ね、中央を直径12cmの円形に縫い合わせ、縫代7mm残して中心部を切りとったのち、縫代に切り込みを入れて表に返す。この試料を洗たく機で360分まで洗たくし、縫代の破損の状態を調べる。

○針目の大きさ・1.5, 2.0, 2.5mmの3段階。

○縫目補強の方法・①縫っただけ、②1mm幅ステッチ、③5mm幅ステッチ、④片側だけ1mmステッチの4方法。

○布地のほつれやすさ、① 5×6 cmの試片の洗たくによるタテ・ヨコ糸のほつれの程度を調べる。②直径12cmの円形試片の周囲に7mm深さの切り込みを入れ、洗たくによる各切片のほつれの程度を調べる。

3. 彎曲縫目の破損の程度は布地により異なり、破損しやすい部位についても、布地毎に共通でない。

○布地のほつれやすいものは縫目もほつれやすい傾向がある。

○針目は大きいほど縫目は破損しやすい。

○ステッチによる縫目の補強は、よい効果がある。